

甲斐市文化財調査報告 第3集  
(山梨県)

## 三昧堂遺跡

マンション建設に伴う平安時代遺跡の発掘調査報告書

2005

甲斐市教育委員会

甲斐市文化財調査報告 第3集  
(山梨県)

# 三昧堂遺跡

マンション建設に伴う平安時代遺跡の発掘調査報告書

2005

甲斐市教育委員会

## 例　　言

1. 本書は、山梨県甲斐市中下条地内に所在する三昧堂遺跡の第Ⅰ次調査をまとめた発掘調査報告書である。
2. 本調査はマンション建設に伴い実施され、調査面積は約463m<sup>2</sup>である。発掘調査、整理調査、報告書刊行までの経費は、地権者である長田ゆき子氏が負担した。
3. 調査は試掘調査を大島正之（当時敷島町教育委員会）が担当し平成12年2月14～17日まで行った。本調査は大島が担当し、平成12年7月21日～平成12年8月23日まで行った。整理調査は断続的に行った。
4. 調査組織は以下のとおりである。

### 調査組織

調査指導・主管 敷島町教育委員会（平成16年8月まで）

甲斐市教育委員会（平成16年9月から）

調査主体者 敷島町文化財調査会

### 調査指導担当者

『発掘調査』 大島正之（敷島町教育委員会生涯教育課社会教育係副主査）

『整理調査』 大島正之（敷島町教育委員会生涯教育課社会教育係副主査 平成16年8月まで）

（甲斐市教育委員会生涯学習文化課文化財担当副主査リーダー 16年9月から）

小坂隆司（敷島町教育委員会生涯教育課社会教育係嘱託 平成16年8月まで）

（甲斐市教育委員会生涯学習文化課文化財担当嘱託平成16年9月～12月まで）

調査事務局 敷島町文化財調査会（平成16年8月まで）

甲斐市教育委員会（平成16年12月から）

5. 本書の執筆・編集は大島が担当し、整理作業については大島・小坂の指示のもと長田由美子、小林明美、高添美智子、関本芳子、望月典子で実測、トレース、版組を行った。

図版中、遺跡の全景、遺構写真、遺物の写真撮影、図版編集は大島が行った。

6. 調査と報告書作成にあたり、次の方々よりご教示をいただいた。ご芳名を記し、感謝申し上げる。

羽中田壯雄、中込司郎、坂本美夫、畑 大介（旧敷島町文化財審議会委員）

7. 発掘調査ならびに整理作業参加者

青山制子、石川弘美、長田由美子、小林明美、関本芳子、高添美智子、保坂広昭、望月典子（敷島町文化財調査協力員－平成16年8月まで、甲斐市文化財調査協力員－平成16年12月から）

牧野真一（創価大学学生－平成12年当時）

8. 本遺跡の出土遺物および調査で得られたすべての記録については一括して甲斐市教育委員会に保管してある。

## 凡　　例

1. 本書の第1図は国土地理院発行の地形図（1：25,000）「甲府市北部」「蘿崎」「甲府」「小笠原」の各一部を用いて作成したものである。
2. 遺物挿図中、断面が白抜きは土器・土師器類、■は須恵器で、上器・土師器表面の □は赤彩を表す。
3. 図版中、遺構と遺物は縮尺が統一されていない。

# 本文目次

第1章 遺跡をとりまく環境	
1. 遺跡の立地と環境	1
2. 周辺遺跡の概要	1
第2章 遺構と遺物	
a. 1号住居跡	4
b. 1号堅穴状遺構	6
c. 土坑跡	6
第3章 まとめ	16
報告書抄録	

# 挿図目次

第1図 松ノ尾遺跡と周辺の遺跡	2	第8図 9~15号土坑	8
第2図 調査区位置図	3	第9図 16~21号土坑	9
第3図 調査区全体図	3	第10図 22~27号土坑	10
第4図 1号住居跡	4	第11図 28~30号土坑	11
第5図 1号住居跡出土遺物	5	第12図 土坑・ピット出土遺物	12
第6図 1号堅穴状遺構	6	第16図 遺構外出土遺物	13
第7図 1~8号土坑	7		

# 表目次

第1表 1号住居跡出土遺物観察表	14	第4表 ピット出土遺物観察表	15
第2表 土坑一覧表	14	第5表 遺構外出土遺物観察表	15
第3表 土坑出土遺物観察表	15		

# 図版目次

図版1-1 調査区全景		図版3-4 14号土坑	
図版1-2 1号住居跡		図版3-5 15号土坑	
図版1-3 1号住居跡カマド(1)		図版3-6 16号土坑	
図版1-4 1号住居跡カマド(2)		図版3-7 17号土坑	
図版1-5 1号堅穴状遺構		図版3-8 18号土坑	
図版2-1 1号土坑		図版4-1 19号土坑	
図版2-2 2号土坑		図版4-2 20号土坑	
図版2-3 3号土坑		図版4-3 21号土坑	
図版2-4 4号土坑		図版4-4 22号~24号土坑	
図版2-5 5号土坑		図版4-5 25号土坑	
図版2-6 6号土坑		図版4-6 26号土坑	
図版2-7 7号土坑		図版4-7 27号土坑	
図版2-8 8号土坑		図版4-8 28・29号土坑	
図版3-1 9号~11号土坑		図版5-1 30号土坑(1) -集石	
図版3-2 12号土坑		図版5-2 30号土坑(2)	
図版3-3 13号土坑		図版5-3 1号住居跡出土遺物	

# 第1章 遺跡をとりまく環境

## 1. 遺跡の立地と環境（第1図）

甲斐市は、甲府盆地の北西部に位置し、県都甲府市の西側に隣接する。市内は、地形の特徴から大きく4つの地域に分けることができる。まず市内北部は、茅ヶ岳、曲岳、太刀岡山など標高千メートルを超す山々が点在する山岳地帯で、急峻な地形を呈している。市西部は黒富士、茅ヶ岳の火山活動によって形成された台地が広がり、通称『登美台地』『赤坂台地』と呼ばれる茅ヶ岳南麓の丘陵地域となる。市東部は奥秩父山系の金峰山を源とする荒川が流れ、この荒川によって形成された扇状地帯となっている。市南部は南アルプス銚岳を源とする釜無川（富士川）によって形成された扇状地帯である。

甲斐市は北部から中部にかけ山間地、丘陵地帯となり、南部は市の東西端を流れる荒川、釜無川によってできた扇状地となる。市内標高は最高が北部の1703.5m、最低が南部264.9mと標高差1400mを超え、バリエーションに富んだ環境である。

報告する三昧堂遺跡は市西部にあり、荒川によって形成された扇状地の扇頂部末端に位置し、微高地に営まれた集落遺跡である。標高292mを測る。

なお、甲斐市は平成16年9月1日に中巨摩郡竜王町、同敷島町、北巨摩郡双葉町が合併し誕生した市で、この三昧堂遺跡は旧敷島町に所在する遺跡である。

## 2. 三昧堂遺跡と周辺の遺跡（第2・3図）

遺跡は、甲府市との境界を流れる荒川と黒富士、茅ヶ岳によって形成された通称登美台地との間に位置する。この登美台地と荒川の間（旧敷島町域）には南北に延びる2本の微高地があり、本遺跡は東側微高地の西端に営まれた遺跡である。遺跡は微高地端に位置し、遺跡西側は谷状地形になるため、遺構、遺物数は少ないと見える。

遺跡南側、西側には接して松ノ尾遺跡がある。松ノ尾遺跡は平成6年（'94）に第1次の調査が実施されて以来これまでに12次に亘る発掘調査が行われ、縄文時代中期から後期、弥生時代後期、古墳時代前、後期、奈良時代から室町時代に至る住居跡や掘立柱建物跡などが発見された複合遺跡である。松ノ尾遺跡の特質は、奈良、平安時代にあり、これまでに銅製小金銅仏2軀、円面鏡4固体分をはじめ、布目瓦、螺旋、縄文陶器（耳皿、碗など）、青磁、貿易陶磁器、帶金具、銅鏡片など特殊遺物が多く出土している。このため、官衙関連遺跡の可能性も指摘されている。

遺跡西側の浅い谷状地形を越えると西側の微高地となる。三昧堂遺跡南西にはこの西側微高地上に営まれた御岳田遺跡がある。御岳田遺跡は古墳時代前期、後期、平安時代を中心とする集落跡で、これまでに加工途中の水晶製丸玉などが出土している。

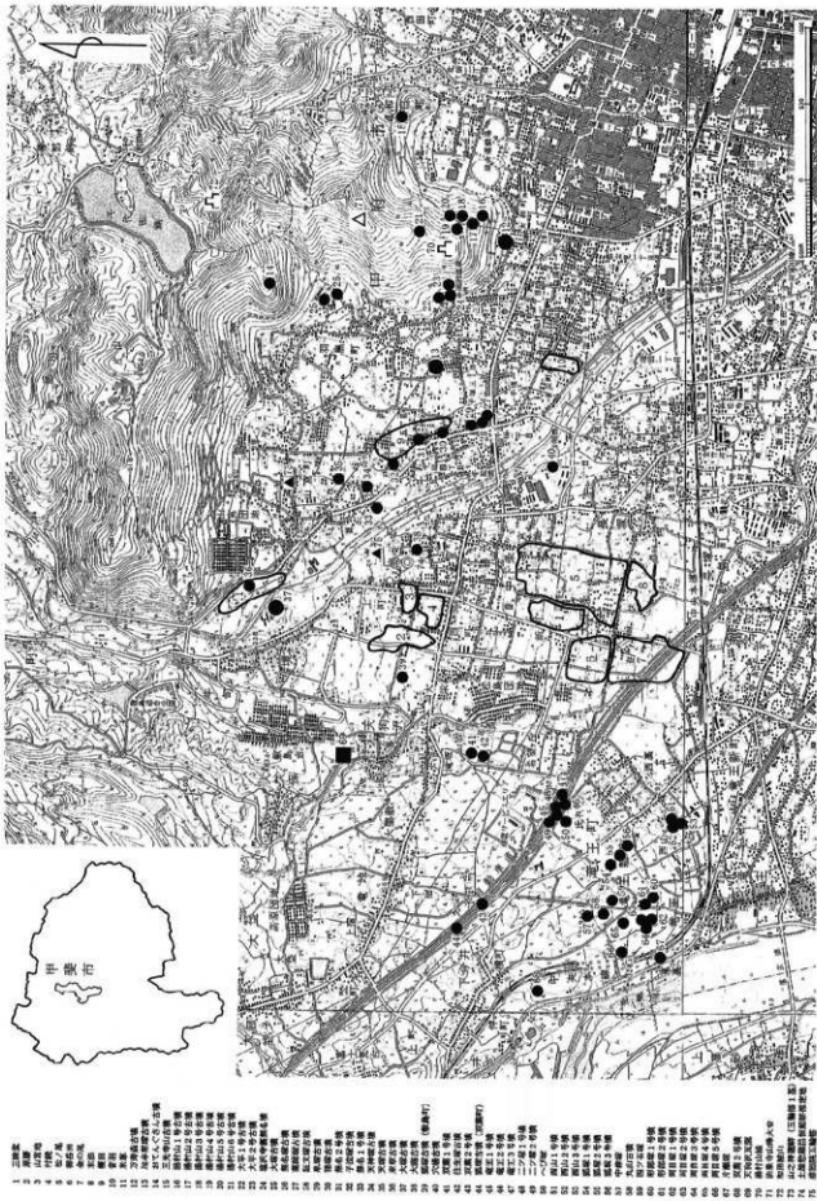
御岳田遺跡の南に隣接して金の尾遺跡が所在する。弥生後期を中心とする環濠集落跡で、これまでに周溝墓23基、住居跡33軒が出土し、この他にも古墳時代前期周溝墓3基、同期住居跡などが発見されている。遺跡の全容はまだ明らかにはなっていないが、本県の弥生時代を代表する遺跡といえる。

三昧堂遺跡西方の台地には古墳時代後期の群集墳『赤坂台古墳群』がある。現在は7基が確認されている。

遺跡北西の通称敷島台地には7世紀後半とされる瓦陶兼業窯の天狗汎登り窯跡がある。3基の窯跡が調査されており本県最古の窯跡である。

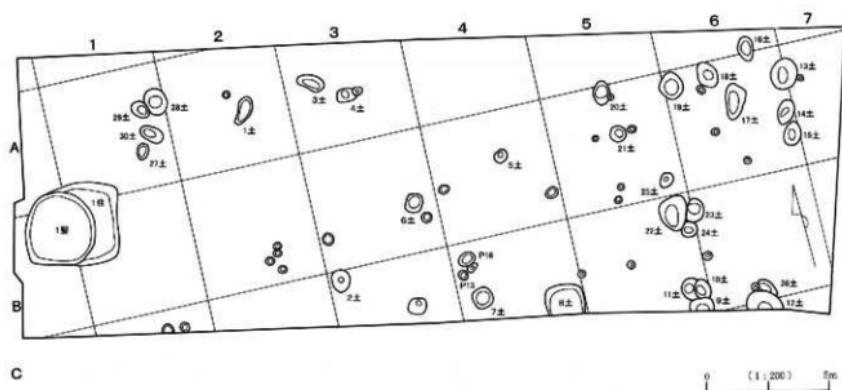
以上のとおり三昧堂遺跡周辺には縄文時代から連続と人間の生活が営なされてきていることが明らかとなっている。特に奈良時代から平安時代にかけては政治、経済、文化の中心的役割をなした地域と言える。

第1図 三昧堂遺跡と周辺の遺跡（甲斐市煮島地区）





第2図 調査区位置図



第3図 遺構配置図

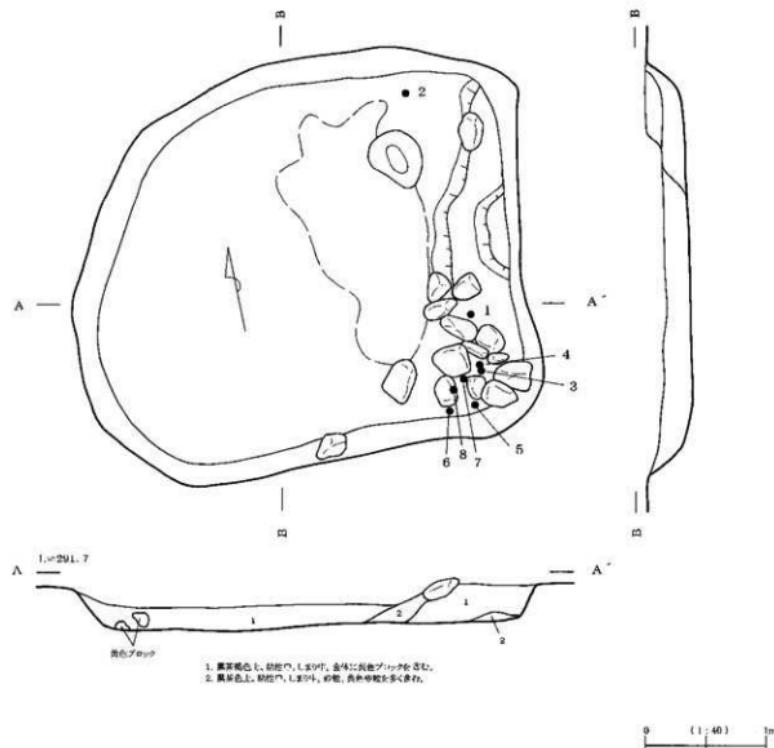
## 第2章 遺構と遺物

三味堂遺跡は、敷島地区南部に広がる扇状地内東側微高地の西端に位置する。浅い谷への落ち込み際ということなのだろうか、遺構、遺物の密度は薄いといえる。今回の調査においても住居跡は1軒、堅穴状造構1基、土坑30基、ピット群のみの発見であり、遺構希薄な状況を追認する結果となった。

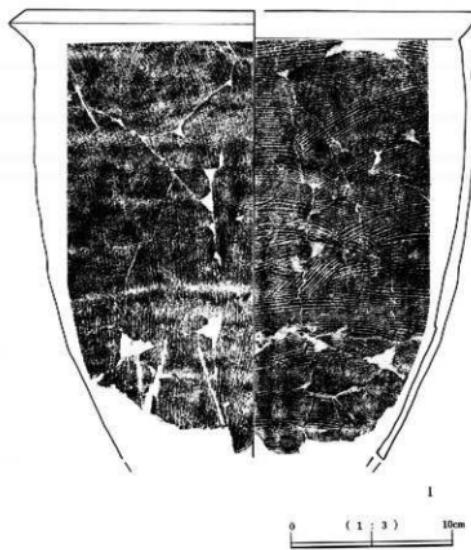
a. 1号住居跡（第4図、第1表、図版1-2）

調査区西端の1A、1Bグリッドにまたがり位置する。遺構の西側二分の一の二が1号竪穴状遺構によって切られているため住居規模は明確ではないが凡そ、一辺東西3.7m、南北3.5mのほぼ正方形を呈すると考えられる。壁高は27cmを測り、住居東南コーナーにカマドを設ける。カマドは花崗岩質の河原石で構築されており、カマド内からは逆位に「両」と墨書きされた上師器坏や、正位に「古和子」と刻書きされた上師器皿などが出土している。

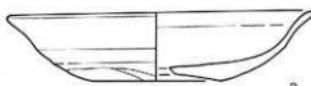
遺構年代は出土遺物などから、10世紀前半から半ば頃と考えられる。



#### 第4図 1号住居跡



2



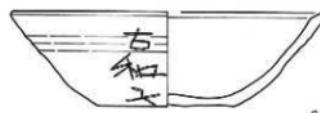
3



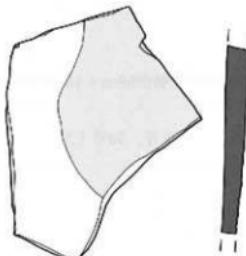
4



5

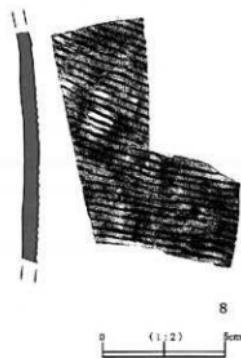


6



第5図 1号住居跡出土遺物

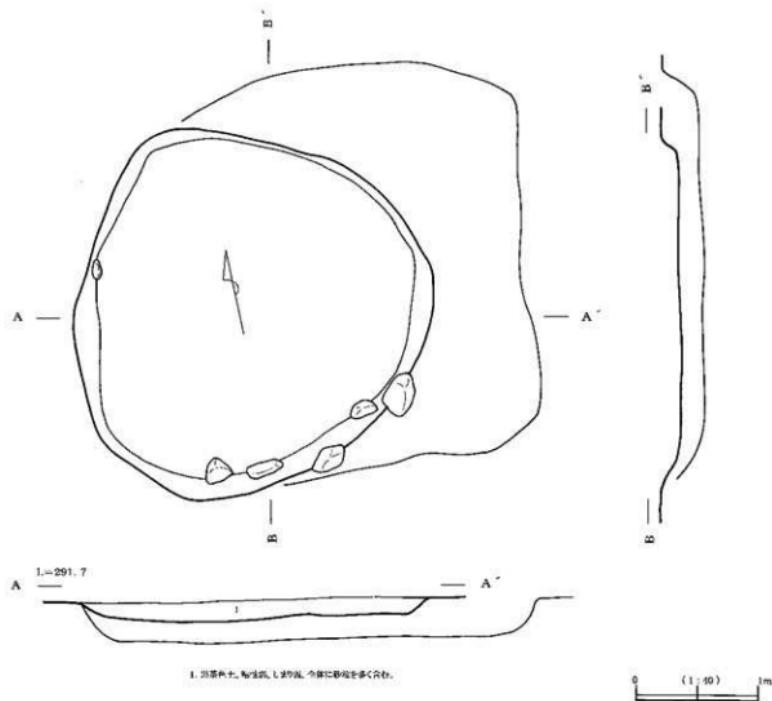
— 5 —



b. 1号竪穴状遺構（第6図、図版1-5）

遺構は、1A、1Bグリットにまたがり、1号住居跡と重複関係にある。1号住居跡を切って存在する。遺物は土師器小片が少量出土したのみで固化できるものは無かった。

規模は直径約2.9mの円形を呈し、壁高は15cmを測る。1号住居跡が10世紀前半頃と考えられるため、本遺構の年代はそれ以降となる。

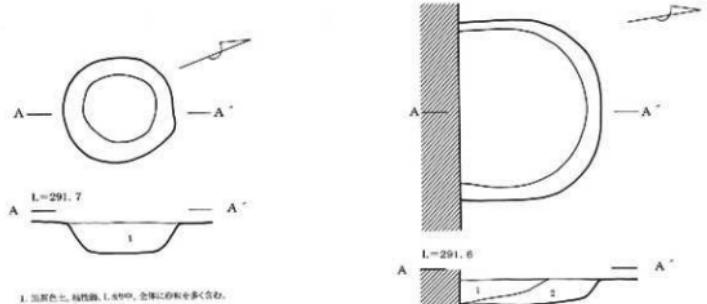
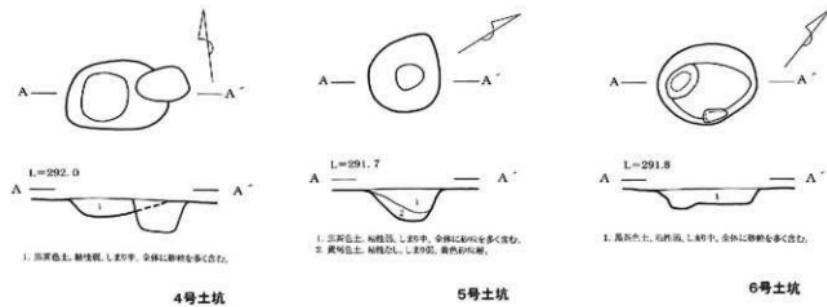
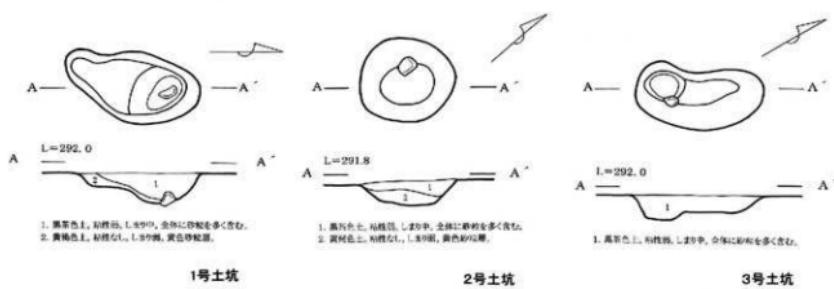


第6図 1号竪穴状遺構

c. 土坑（第7～12図、第2表、図版2～5）

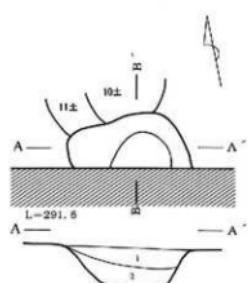
今次調査において30基の土坑を調査した。形状は円形ないし稍円形を呈し、規模は長軸が58cm～166cm、短軸が33cm～117cmで、統一性は見られない。

土坑は調査区の東側に偏在して確認され、27号、29号土坑より土師器壺、羽釜が、8号、30号土坑より土師質土器小皿、壺が出土している。



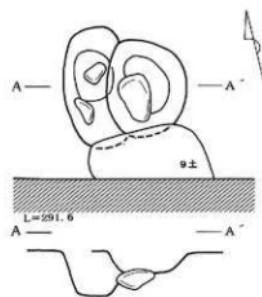
第7図 1~8号土坑

0 (1:40) m

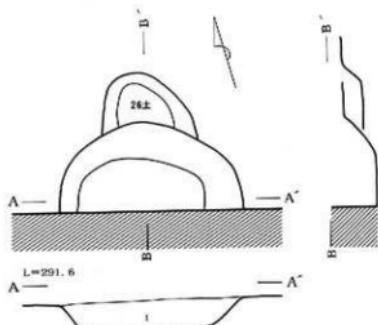


1. 黒褐色土。粘性質。L.より少。土壁に砂粒を多く含む。  
2. 黄褐色土。粘性質。L.より少。黄色砂粒。

9号土坑

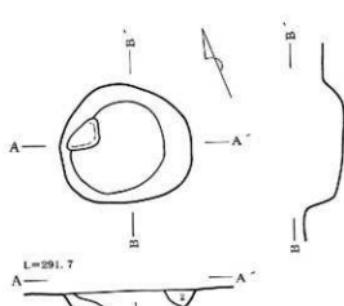


11号土坑 10号土坑



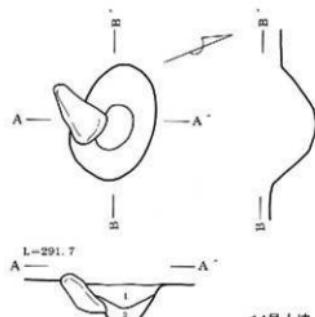
1. 黑褐色土。粘性質。L.より少。土壁に砂粒を多く含む。  
2. 黄褐色土。粘性質。L.より少。黄色砂粒。

12号土坑



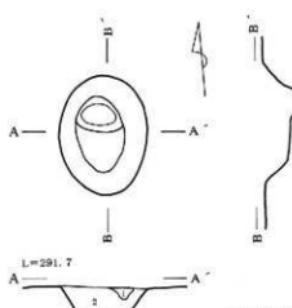
1. 黑褐色土。粘性質。L.より少。物質を多く含む。  
2. 黄褐色土。粘性質。L.より少。黄色砂粒を多く含む。

13号土坑



1. 黑褐色土。粘性質。L.より少。砂粒を多く含む。  
2. 黄褐色土。粘性質。L.より少。黄色砂粒を多く含む。

14号土坑

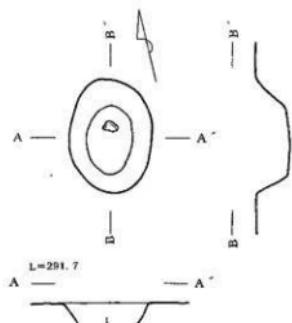


1. 黑褐色土。粘性質。L.より少。砂粒を多く含む。  
2. 黄褐色土。粘性質。L.より少。黄色砂粒。

15号土坑

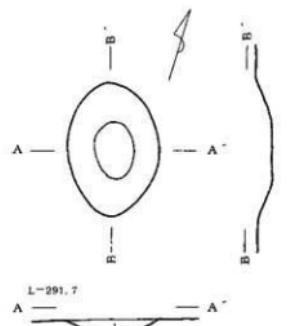
0 (1:40) 1m

第8図 9～15号土坑



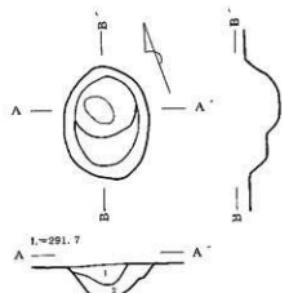
1. 植苗带的土壤肥力水平，即指土壤有机质、

16号主栋

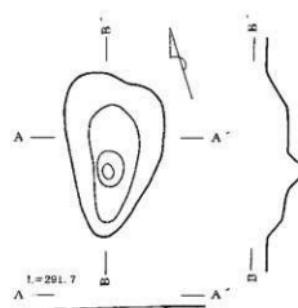


#### 1. 食物の上部が頭上部に移る場合

18号土坑

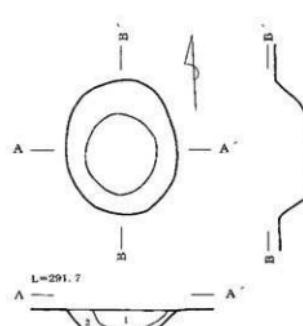


1. 地面褐色。粘性小。しわり少。小石を少數含む。  
2. 地面褐色。粘性大。しわり強。黄白色鉄を多く含む。



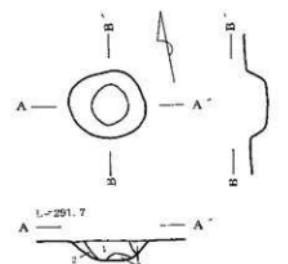
3. 15 条文- 精算师、会计师、税务师和专业人士

17号土坑



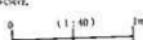
1. 粘葉褐色土。酸性中。し沃リア。小石を少量含む。
2. 黄褐色土。酸性強。しまわ中。黄色砂粒を多く含む。

19号土坑

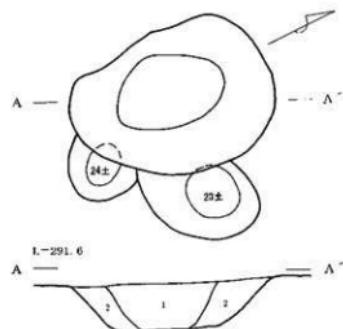


1. 茶褐色上、點性中、しまり中。小頭長少或有毛。
2. 黑褐色上、點性中、しまり中。翼外緣缺或多向行

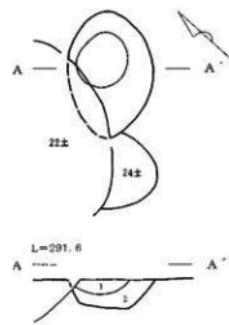
21号土地



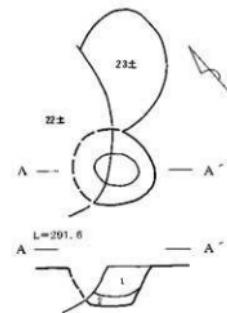
第9図 16~21号土坑



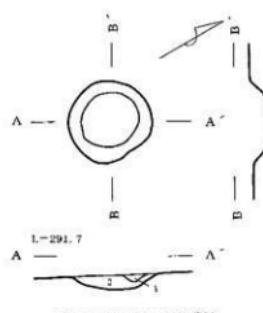
22号土坑



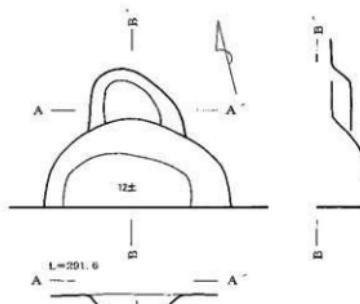
23号土坑



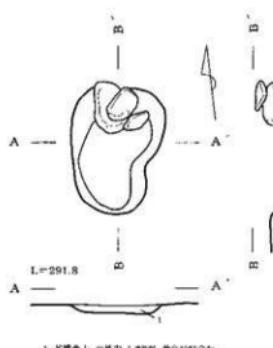
24号土坑



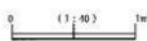
25号土坑



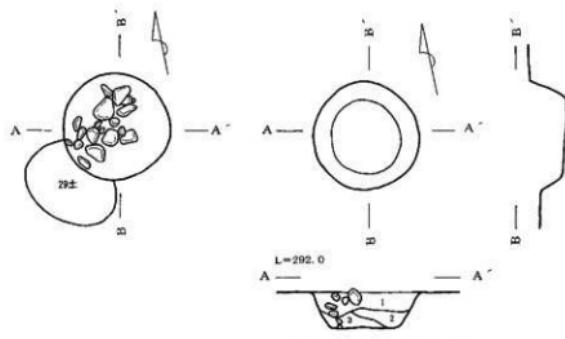
26号土坑



27号土坑

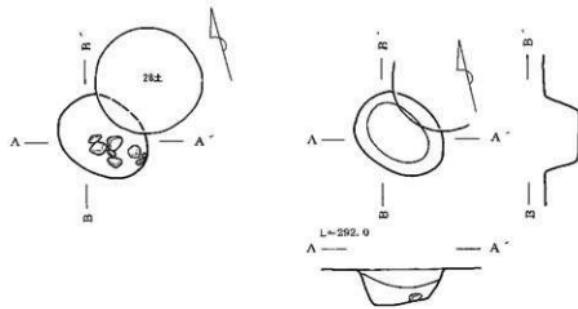


第10図 22~27号土坑



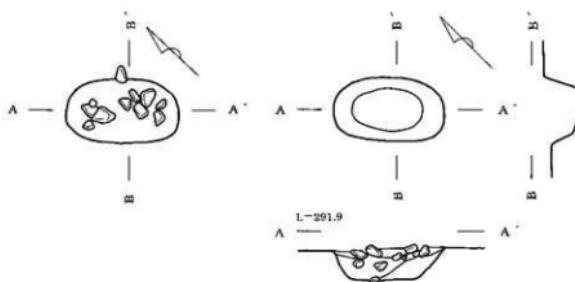
1. 暗灰褐色土。粘性質。L.292.0。金属性物を含む。
2. 暗灰褐色土。粘性質。L.292.0。黄色鉄物を多く含む。
3. 黄褐色土。粘性質。L.292.0。白色砂利層。

28号土坑



1. 暗灰褐色土。粘性質。L.292.0。小石を含む。
2. 黄褐色土。粘性質。L.292.0。黃色鉄物を多く含む。
3. 黄褐色土。粘性質。L.292.0。全層に鐵錫鉱を含む。

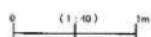
29号土坑

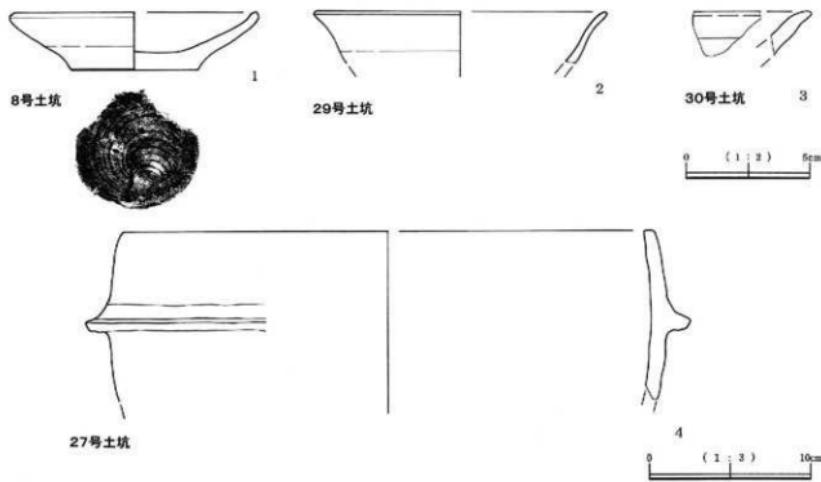


1. 黄褐色土。粘性質。L.291.9。電起セラミカ。

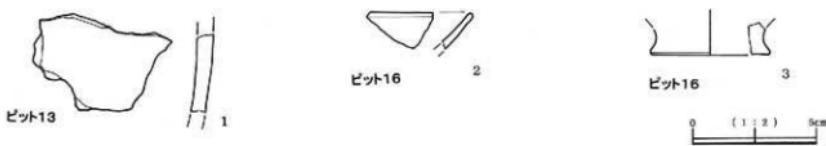
30号土坑

第11図 28~30号土坑

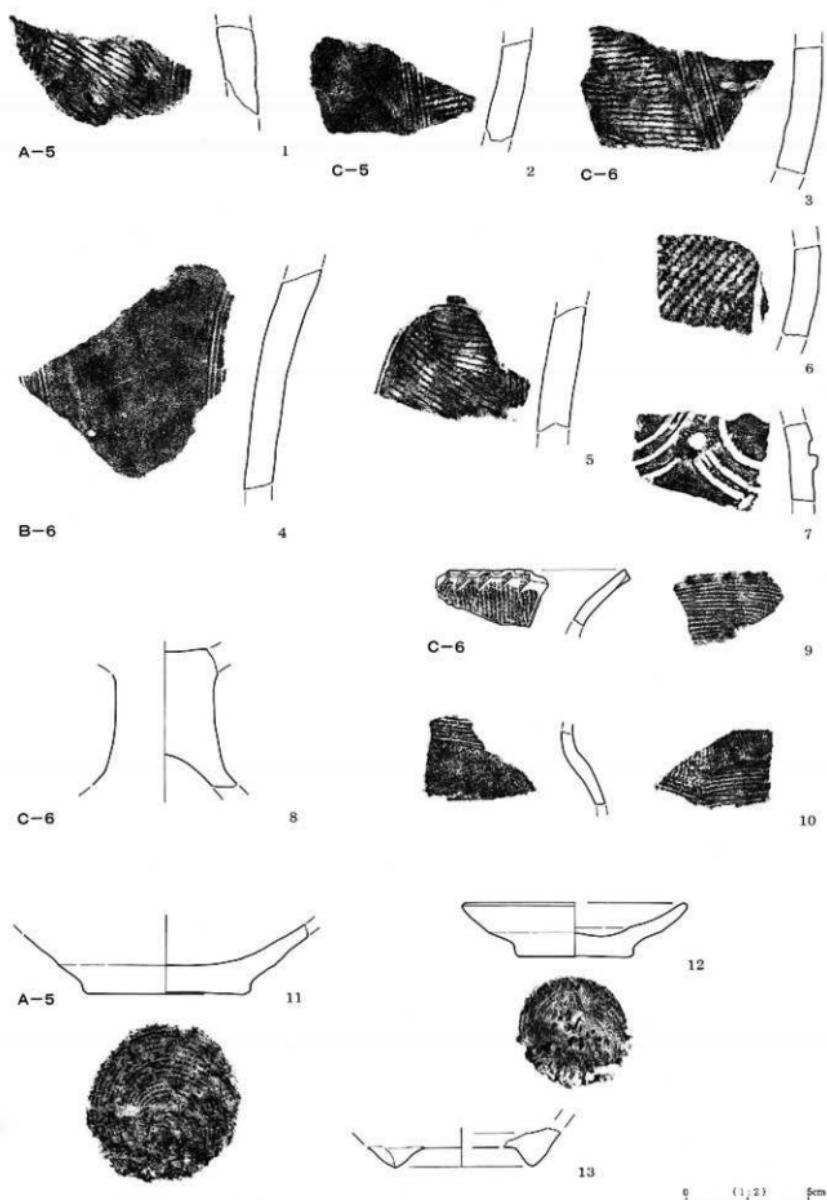




第12図 土坑出土遺物



第13図 ピット出土遺物



第14図 遺構外出土遺物

第1表 1号住居跡出土遺物観察表

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	掉岡	岡版
1	上師器	甕	推定口徑 28.0cm 底径 5.2cm	金雲母・長石・石英	暗茶褐色	良好	内面横方向のハケ目。 外面縦方向のハケ目。	5	1
2	土師器	甕	推定高 2.3cm 推定口径 11.8cm 推定底径 5.2cm	赤色粒子	明茶褐色	良好	外面底部にかけてヘラ削り。	5	1
3	上師器	甕	器高 2.9cm 口径 12.4cm 底径 5.3cm	長石・赤色粒子	明茶褐色	良好	外面底部にかけてヘラ削り。 底部系切痕。	5	1
4	土師器	甕	器高 3.8cm 推定口徑 12.8cm 底径 4.0cm	長石・赤色粒子	暗茶褐色	良好	外面底部にかけてヘラ削り。	5	1
5	土師器	甕	器高 4.8cm 口径 14.6cm 底径 4.0cm	長石多量	明褐色	良好	外面体部に墨有り。 外面底部にかけてヘラ削り。	5	1
6	土師器	甕	器高 3.8cm 推定口径 12.6cm 底径 5.6cm	長石・赤色粒子	明茶褐色	良好	外面体部に刻書有り。	5	1
7	須恵器	甕		長石・石英	明灰色	良好	朱墨を使用した瓶用瓶。	5	1
8	須恵器	甕		長石・石英	暗茶褐色	良		5	1

第2表 土坑一覧

番号	位置	平面形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物・備考	
1号土坑	A-2	Gr	楕円形	99	40	25	
2号土坑	C-3	Gr	円形	76	67	18	
3号土坑	A-3	Gr	楕円形	105	48	20	
4号土坑	A-3	Gr	楕円形	83	57	15	
5号土坑	B-4	Gr	円形	58	58	28	
6号土坑	B-3	Gr	楕円形	82	67	15	
7号土坑	C-4	Gr	円形	89	85	25	
8号土坑	C-4	Gr	円形	150	117	20	土師質土器小皿
9号土坑	C-5	Gr	楕円形	97	45	30	9号・10号土坑に切られる。
10号土坑	C-5	Gr	楕円形	76	65	17	
11号土坑	C-6	Gr	楕円形	97	33	36	
12号土坑	C-6	Gr	楕円形	149	73	25	
13号土坑	B-6.7 Gr		円形	107	95	23	
14号土坑	B-6	Gr	楕円形	95	56	32	
15号土坑	B-6	Gr	楕円形	98	72	28	
16号土坑	A-6	Gr	楕円形	93	68	26	
17号土坑	B-6	Gr	楕円形	135	80	27	
18号土坑	B-6	Gr	楕円形	110	75	12	
19号土坑	B-6	Gr	楕円形	112	90	27	
20号土坑	B-5	Gr	楕円形	91	68	26	
21号土坑	B-5	Gr	円形	62	55	16	
22号土坑	C-5	Gr	楕円形	166	108	40	
23号土坑	C-6	Gr	楕円形	100	69	23	22号土坑に切られる。
24号土坑	C-5	Gr	円形	62	62	34	22号土坑に切られる。
25号土坑	B-5	Gr	円形	69	67	18	
26号土坑	C-6	Gr	楕円形	70	39	17	12号土坑に切られる。
27号土坑	A-1	Gr	不整形	104	74	10	羽筆
28号土坑	A-1	Gr	円形	88	87	28	
29号土坑	A-1	Gr	楕円形	70	62	8	上師質土器坏。28号土坑に切られる。
30号土坑	A-1	Gr	楕円形	91	53	27	上師質土器坏

第3表 土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	番号	挿図
1	上師質土器	小皿	器高 2.4cm 推定口径 10.0cm 底径 5.2cm	金雲母多量	暗茶褐色	良好	底部糸切痕。	8号土坑	12
2	土師器	壺	推定口径 11.8cm	金雲母	暗茶色	良好		29号土坑	12
3	上師質土器	壺		金雲母・長石	暗茶色	良好		30号土坑	12
4	土師器	羽蓋	推定口径 31.2cm	長石多量	黒茶色	良		27号土坑	12

第4表 ピット出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	番号	挿図
1	土師器			長石多量	茶褐色	良		ピット13	12
2	土師器	壺		長石多量	茶褐色	良		ピット16	12
3	土師質土器	柱状高台	推定口径 4.7cm	金雲母・長石	茶褐色	良好		ピット16	12

第5表 遺構外出土遺物

No	器種	器形	計測値	胎土	色調	焼成	器形の特徴	グリット	挿図
1	縄文土器	深鉢		粗い。	淡茶色	良	半裁竹管による2条の沈線。 縄文L R。	A-5	13
2	縄文土器	深鉢		粗い。	淡茶色	良	半裁竹管による2条の沈線。 縄文L R。	C-5	13
3	縄文土器	深鉢		粗い。	淡茶褐色	良	半裁竹管による2条の沈線。 縄文L R。	C-6	13
4	縄文土器	深鉢		粗い。	淡茶色	良	半裁竹管による2条の沈線。 磨り消し。	B-6	13
5	縄文土器	深鉢		長石・黑色雲母 白色粒子	赤褐色	良	沈線。縄文L R。	確認面	13
6	縄文土器	深鉢		粗い。	淡茶色	良	半裁竹管による2条の沈線。 縄文L R。	確認面	13
7	縄文土器	深鉢		金・黑色雲母 白色粒子	淡茶色	良	沈線。	確認面	13
8	上師質土器	壺	底径 6.4cm	金雲母多量	茶色	良	底部糸切痕。	C-6	13
9	土師質土器	小皿	器高 2.3cm 推定口径 8.9cm 底径 4.6cm	長石・雲母	赤褐色	良好	底部糸切痕。	C-6	13
10	土師器	高壺		長石・赤色粒子	明茶褐色	良好		確認面	13
11	上師器	甕		長石多量	淡茶褐色	良	LJ縫部キザミ。 内面横方向のハケ目。 外面縱方向のハケ目。	A-5	13
12	土師器			長石・石英	淡茶褐色	良	内面横方向のハケ目。 外面縱方向のハケ目。	確認面	13
13	上師器	香炉		長石・石英 赤色粒子	淡茶色	良好		確認面	13

## 第3章 まとめ

今回の調査では、平安時代住居跡、平安から中世にかけての土坑跡、竪穴状造構、ピットが調査された。この他の造構は確認されなかった。

遺物は造構外で出土した縄文時代中期深鉢片の他は平安末を中心とする土師器、土師質土器が中心であった。1分住居跡からは土師器壺、壺、皿など比較的豊富で良好な遺物が出土している。第5図7は須恵器壺片で、内面に朱墨痕が看取されることから転用壺の可能性が高い。

三昧堂遺跡は、荒川によって形成された扇状地内にある微高地の西端に位置する。この微高地上には布目瓦や螺鈿、円面鏡、小金銅仏などが出土した松ノ尾遺跡や古墳時代全般にわたる住居跡が発見された末法遺跡がある。特に松ノ尾遺跡とは隣接しており、造構、遺物内容、地形的条件などから同一遺跡として扱っても支障はないものと思われる。

今次調査における発見住居跡数は1軒であり、調査区東側に広がる松ノ尾遺跡中心部と比較し極端に希薄になる。この傾向は、調査区のさらに西側において実施した第2次調査や北側で実施した試掘調査によっても同様の結果となっている。これは、微高地西端部の谷の周縁部という地形的条件によるものと考えられ、今回の調査において、微高地西縁部の様相の一端を明確にすることができた。

甲斐市東部の荒川扇状地域には二筋の微高地があり、この微高地上に縄文時代からの集落が営まれたことが近年の発掘調査から明らかとなってきた。特に東側微高地は高地の東西幅が長いことから面積が広く、尚且つ東側が荒川に面しているため水路交通の便もよく、高地北側を東西に横断する穂坂路の存在からも安定した土地と水陸路交通の要所となっている。遺跡北西部に位置する『県指定史跡天狗沢瓦窯跡』の存在など周辺遺跡も考慮に入れれば、東側微高地上に営まれた遺跡群は一般的な集落とは異なった有力豪族、官衙機構と密接な関係を持った遺跡である可能性が高いと言えよう。

### 参考文献

大島正之、小坂隆司 2004 「埋蔵文化財試掘調査年報 '04」 敷島町教育委員会

# 写 真 図 版



1

三昧堂遺跡Ⅰ次調査区全景



2

1号住居跡



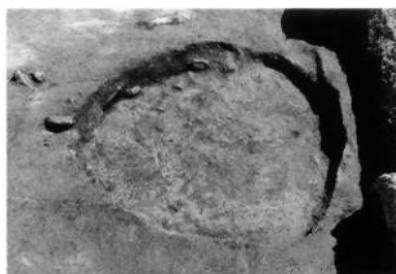
3

1号住居跡カマド(1)



4

1号住居跡カマド(2)



5

1号竪穴状遺構

图版 2



1

1号土坑



2

2号土坑



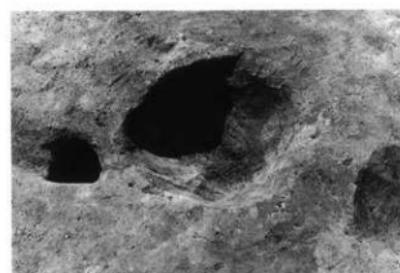
3

3号土坑



4

4号土坑



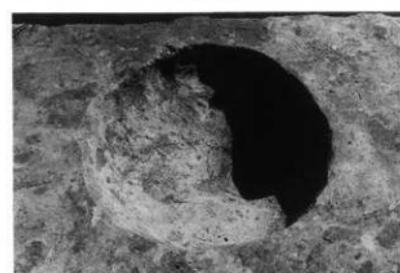
5

5号土坑



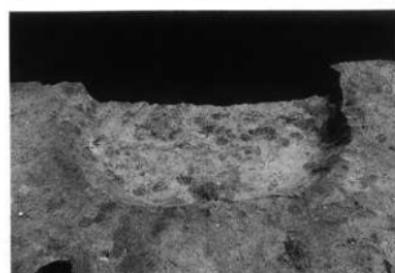
6

6号土坑



7

7号土坑



8

8号土坑



1

9~11号土坑



2

12号土坑



3

13号土坑



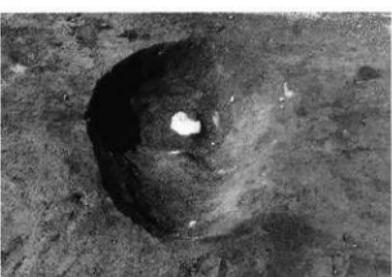
4

14号土坑



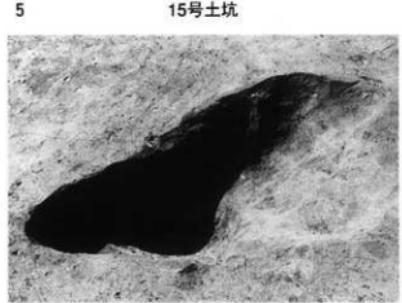
5

15号土坑



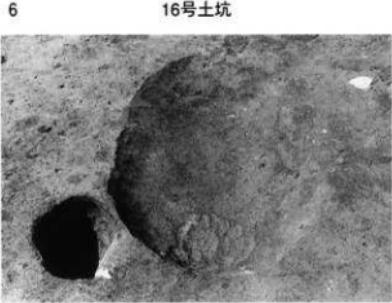
6

16号土坑



7

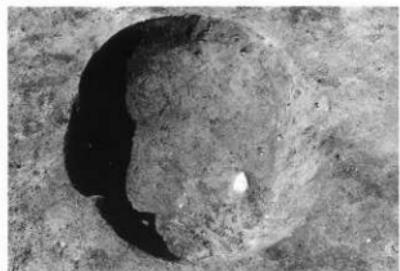
17号土坑



8

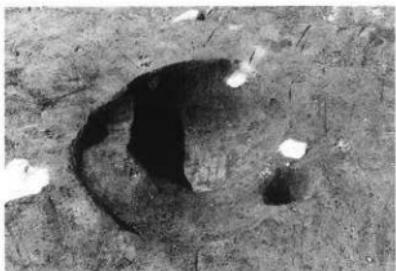
18号土坑

图版 4



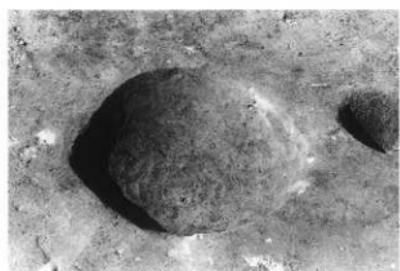
1

19号土坑



2

20号土坑



3

21号土坑



4

22~24号土坑



5

25号土坑



6

26号土坑



7

27号土坑



8

28、29号土坑



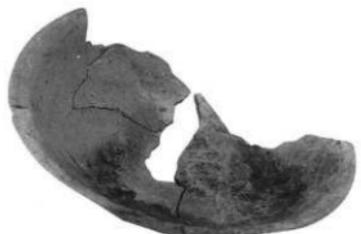
1

30号土坑 (1)



2

30号土坑 (2)



1住-2



1



1住-4



1住-5 (墨書土器)

3

1号住居跡出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	さんまいどういせき					
書名	三味堂遺跡 I					
副書名						
巻次						
シリーズ名	甲斐市文化財調査報告第3集					
シリーズ番号	3					
編著者名	大鳥正之					
編集機関	甲斐市教育委員会					
所在地	〒407-0105 山梨県甲斐市下今井236番地2					
発行年月日	平成17年〔西暦2005〕 7月15日					
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号			
さんまいどういせき 三味堂遺跡	山梨県 甲斐市 中下条1110-1 外	19210	敷・27	平成12年 7月21日 ～ 平成12年 8月23日	463m <sup>2</sup>	マンション建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
三味堂遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳 平安・中世	住居跡 土坑 竪穴状遺構	土師器 須恵器 土師質土器		

## 甲斐市文化財調査報告 第3集

### 三味堂遺跡 I

発行日 2005年(平成17年)7月15日

発行 甲斐市教育委員会

山梨県甲斐市下今井236番地2

TEL 0551(20)3658

印刷 株式会社 少国民社

